

特集
Preconception Care
—健やかな母子となるための最新トピックス—

子宮内膜(1)
慢性子宮内膜炎の病態と治療意義

木村 文則

Summary

慢性子宮内膜炎(CE)は、着床障害の原因になりうる。不妊患者におけるその頻度から不妊原因として重要な要因と考えられる。CEは、細菌などに対する抗原の持続的な子宮内膜の応答と考えられるが、子宮内膜内の免疫異常や脱落膜化障害を惹起し、着床障害を起こすと考えられる。抗菌薬治療により胚受容能の改善が報告されており、治癒可能な疾患である。CEの診断と治療は preconceptional care として妊孕性の改善において重要と考えられる。

Key words

慢性子宮内膜炎
不妊
着床障害
子宮内膜機能異常
抗菌薬

はじめに

体外受精は、不妊症の治療として確固たる地位を築いてきたが、これらの治療を行っても繰り返し着床しない患者がいる。この状態を(反復)着床障害(repeated implantation failure ; RIF)という。着床障害の原因は、一般に胚因子と子宮因子に分けられるが、胚因子は、胚の染色体異常が原因と考えられる。一方、子宮因子として子宮内腔癒着、子宮内膜非薄化、子宮形態異常、子宮内膜ポリープ、子宮筋腫、卵管留水腫、子宮腺筋症が原因と考えられ、多くの臨床医がこれらのスクリーニングを行っている。これらの診断に加え、最近、慢性子宮内膜炎(chronic endometritis ; CE)が、着床障害の原因として注目されるようになってきている。本稿では、CEの病因、疫学、病態、治療方法について概説し、preconceptional care として妊孕性改善におけるCEの重要性を説明する。

CEとは

一般に子宮内膜炎というと急性子宮内膜炎を指す。急性子宮内膜炎は、下腹部痛、発熱などの臨床症状を伴う激しい炎症で、組織学的には好中球の機能層への浸潤を認める。免疫機構が活性化し、細菌などを生体から除去し正常に戻そうとしている状態と考えられる¹⁾。

一方、細菌などの抗原が、月経が繰り返されても子宮内から消失せず、これらの抗原に対し新た

Fuminori Kimura

滋賀医科大学産科学婦人科学講座准教授